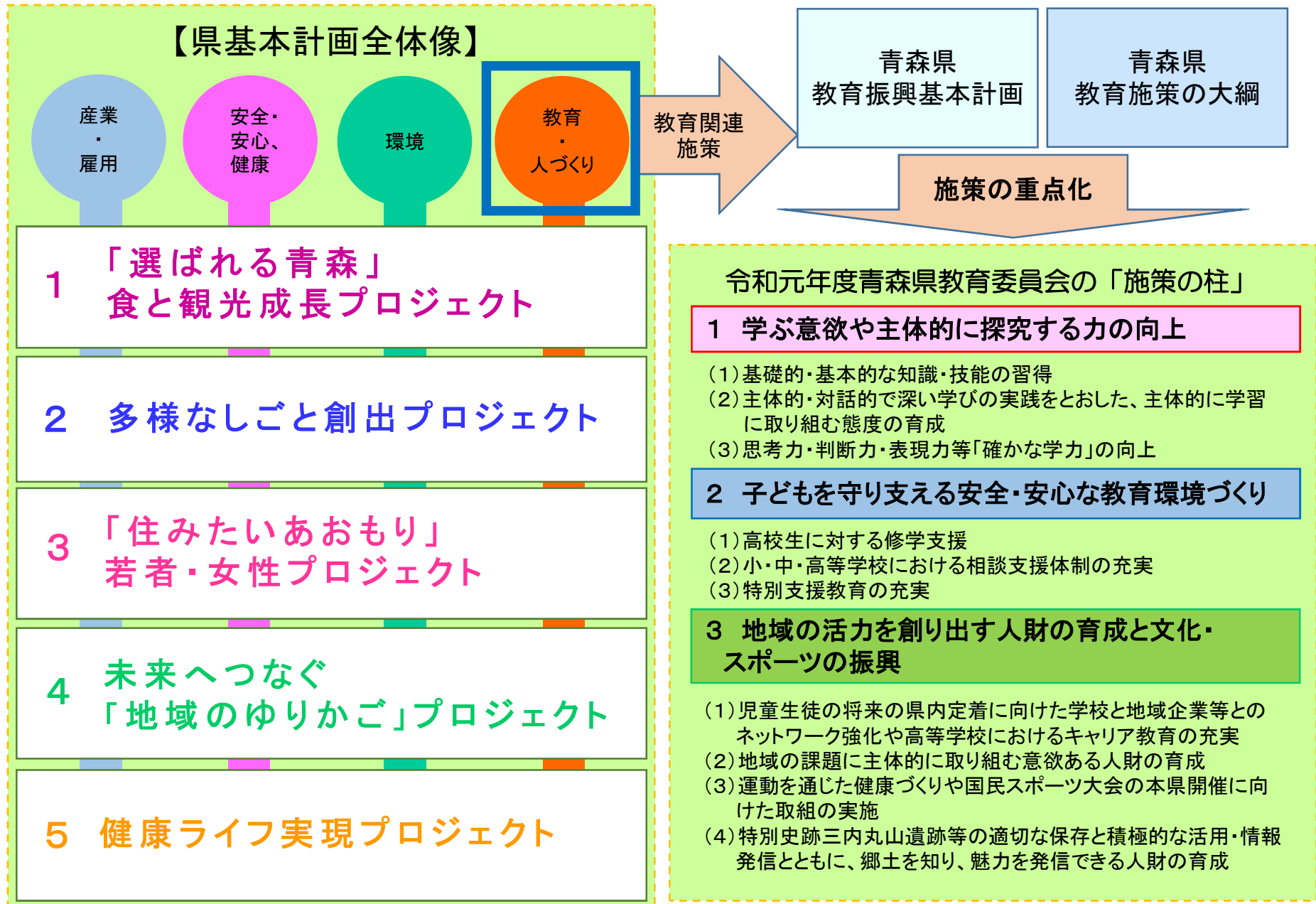


第10回青森県総合教育会議

本県教育の現状と課題を踏まえた
教育施策の方向性について

令和元年10月23日

教育施策の位置付け

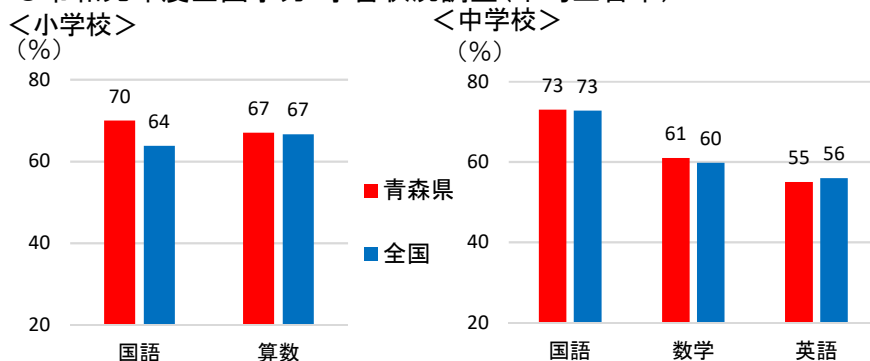


1 学ぶ意欲や主体的に探究する力の向上

現状・課題

- 全国学力・学習調査の結果、本県公立小・中学校の児童生徒の学力は、おおむね良好な状況
- 小学校学習指導要領改訂に伴う英語の教科化やプログラミング教育等への対応

○令和元年度全国学力・学習状況調査(平均正答率)



- 高等学校学習指導要領改訂や大学入試制度改革に対応した英語教育の実践とグローバルな視野の育成

○高校生の英語4技能の能力分析

＜国が求めるCEFR:A2レベル以上の割合＞

Reading	Listening	Writing	Speaking
48%	43%	79%	75%

※平成30年度県内高等学校1学年希望者約3,300人の平均

令和元年度の取組

- ◇小・中学校における新学習指導要領に対応した教員の授業づくりの基本となる「授業スタンダード」の策定、小学校において英語教育の中核となる教員を対象とした研修の実施
- ◇小・中学校におけるICT機器の活用促進や小学校プログラミング教育の教員研修等の実施
- ◇高等学校における新学習指導要領の英語教育への対応及び英語4技能（読む、聞く、書く、話す）データに基づく指導・評価モデルの作成、グローバル化への対応に向けた生徒の海外研修の実施

今後の取組の方向性

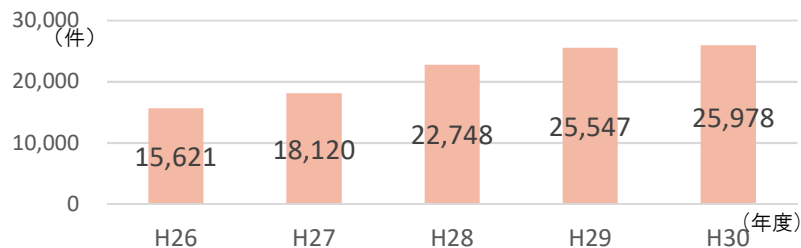
- 小・中学校における「授業スタンダード」の実践
- 小・中学校におけるICT機器の整備促進とICTを活用した取組の充実
- 高等学校英語教育における教員の技能統合型指導による授業改善及びグローバル化に対応した人財の育成並びに台湾の高校との教育交流の実施

2 子どもを守り支える安全・安心な教育環境づくり

現状・課題

- 全ての公立小・中学校にスクールカウンセラーを配置
- SNSの普及などによる子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化

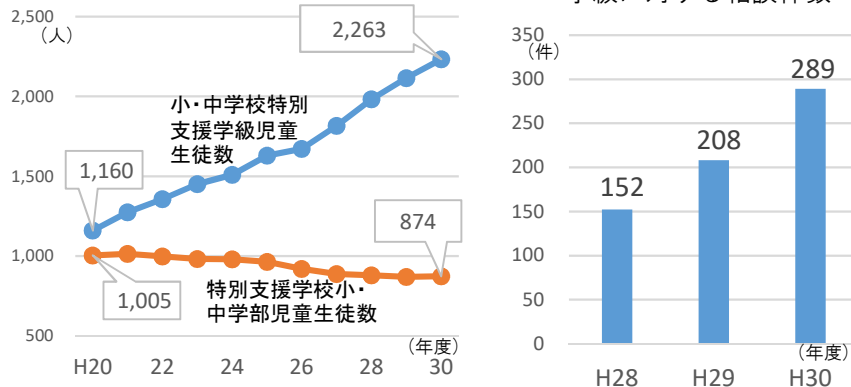
○スクールカウンセラー相談件数（小・中・高合計）



○特別支援教育巡回相談の増加に伴う小・中学校及び高等学校における校内支援体制の充実

○高等学校での通級による指導の充実・実施校の拡充

○特別支援学校及び特別支援学級児童生徒数 ○巡回相談において通常の学級に対する相談件数



令和元年度の取組

◇いじめの未然防止に係る児童生徒主体の取組の推進、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの連携による教育相談体制強化

◇インターネット利用におけるモラルやリテラシーの指導啓発用リーフレットの作成、配布
(知事部局、教育委員会、警察本部による連携)

◇発達障害などの特別な教育的ニーズのある高校生の学びを支援するための校内支援体制の整備

今後の取組の方向性

○小・中・高等学校における効率的・効果的なスクールカウンセラーの活用の検討

○インターネット利用におけるモラルやリテラシーの指導啓発用リーフレットを活用した情報モラル教育に関する学校やPTAに対する啓発活動

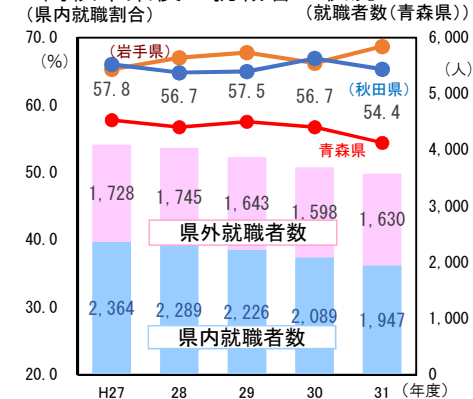
○特別支援教育に関する教員の専門性の向上と関係機関等の連絡・調整機能の強化

3 地域の活力を創り出す人財の育成と文化・スポーツの振興 ①

現状・課題

- 子どもたちの、ふるさと青森への愛着心の高揚
- 新規高卒者の県内就職率の増加
- 新規高卒県内就職希望者と県内企業の相互理解
- 人口減少克服のための県内定着の促進

○高校卒業後の就職者の状況

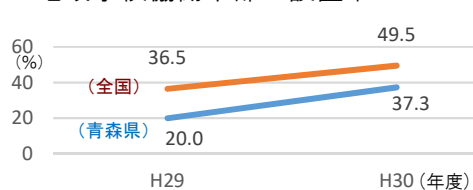


○高等学校新規高卒者の就職者に占める県内就職の割合

卒業年	県内就職希望者	県内就職者
	前年5月末時点	当年3月末時点
平成30年	64.0%	56.1%
平成31年	62.8%	53.3%

- 子どもを取り巻く環境の複雑化などに対応するための、学校・家庭・地域が連携する仕組みづくり
- 地域と学校の連携・協働を支援する地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の配置

○地域学校協働本部の設置率



○県内地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）

年度	人数
平成29年度	143人
平成30年度	296人

令和元年度の取組

- ◇高校生の職業観・勤労観の育成及び卒業後の県内定着を図るための教材の開発
- ◇生徒、保護者、教員と高校と県内企業の相互理解促進のための企業見学等の実施
- ◇地域学校協働活動の促進及び地域での家庭教育支援の充実を図るための教職員研修の実施、地域学校協働活動推進員の育成

今後の取組の方向性

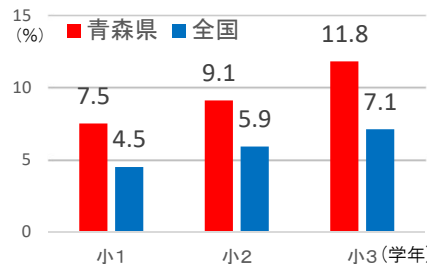
- 高等学校における人口減少克服をテーマとした郷土学習の実施
- 県内就職を支援する外部人材の活用や生徒、保護者、教員等の県内企業見学など、県内就職・定着に向けた取組の実施
- 学校・家庭・地域が連携し、地域学校協働活動や家庭教育支援等に取り組む体制の構築、地域学校協働活動推進員の担い手の育成・確保

3 地域の活力を創り出す人財の育成と文化・スポーツの振興 ②

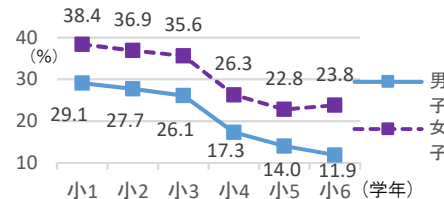
現状・課題

- 肥満傾向児の割合が依然として全国より高い
- 小学校低学年の運動しない児童の割合が高い

○肥満傾向児の割合

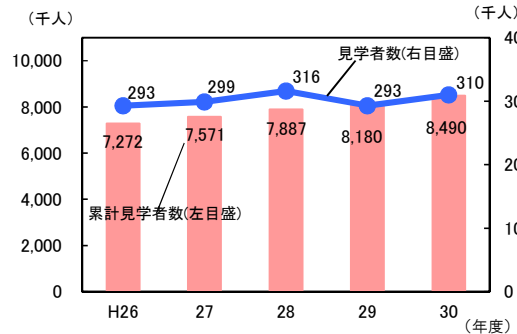


○1日の運動時間が30分未満 (体育の授業を除く)



- 北海道・北東北の縄文遺跡群の中核となる三内丸山遺跡など縄文遺跡群の認知度の向上
- 三内丸山遺跡センターの魅力向上

○三内丸山遺跡見学者数



○三内丸山遺跡有料化後の見学者の割合 (前年比)

月	4月	5月	6月	7月	8月
割合 (%)	90%	78%	51%	61%	65%

令和元年度の取組

- ◇未就学児と保護者向けの体操教室、学生と高齢者とのスポーツ・レクリエーションによる交流、小学生と保護者向けのスポーツイベントの実施等、県民がスポーツを通じた健康づくりに継続的に取り組む環境の充実
- ◇県内の縄文遺跡群で活動する団体や地域住民の協力による高校生のガイド等の体験活動を通じた文化財の保存・活用に携わる人財の育成

今後の取組の方向性

- 小学校低学年向けの運動改善プログラムの作成、小学校教員を対象とした体育の授業改善の実施
- 三内丸山遺跡における史跡整備と世界遺産登録への気運の醸成
- 三内丸山遺跡の継続した価値や魅力の発信